

第53回全国青年

団結集会

2020年1月25日(土)〜26日(日)の2日間にわたって高知県高知市鷹匠町三翠園にて第53回全国青年団結集会在開催されました。30都道府県340人の闘う仲間が結集し、東京清掃からも支部参加を含む6名が参加してきました。

集会初日は、開会集会で主催者・代表委員・来賓よりあいさつを受け、基調提案で気持ちの意思統一を図りました。構成詩では、「県庁職場のパワハラの実態」を聴き、新人職員が職場内でのパワハラにより異動や辞職につながってしまう実態の共有をしました。その後の分散会では、産別を越えた様々な職種の間と職場問題や待遇、今後の課題について意見交換、討論してきました。2日目は、昨日の分散会の再開から始まり時間が許す限り話し合いました。その後、「関西生コン事件は私たちに何を問いかけているのか」をテーマに講演を受け、生コン業界の歴史や現状に触れ、労基法で認められている労働組合の組合運動に対する弾圧などの報告がありました。このような集会に参加することで気づきが多くあるので皆さんも積極的に参加していきましょう。

また近いところでは、メーデー・中央交が予定されているので積極的な参加をお願いします。
これからも団結して共に頑張りましょう!!

2020春闘勝利！
第53回全国青年団結集会 in 高知

団結 抵抗 統一



～参加者の熱い感想を紹介します～



蒲田支部〈古池 明宣〉

こいけ あきのり

～自分たちの権利を主張することが大切～

はじめに、基調提案を聞き、いま自分たちが直面している状況に改めて気づかされました。私たちの清掃職場も今後大きく変わろうとしている中で、自分達の職場環境さえ守られていけばそれで良いというわけではなく、産別を超えた交流を重ね、職種は違っても似た課題をそれぞれの立場で克服していくことが大切と思いました。私達に出来ることは、こうした集会へ参加し、個人個人が団結して主張することで、自分達の職場と権利を勝ち取っていくことが、何よりも必要だと強く感じました。

分散会では、自分を含め、全国から産別を超えた様々な職種の∞名が集まり、それぞれの職場の問題や待遇、今後の課題について意見交換、討論が行われました。最も多くの職場で挙げたのは、「時間外労働」に関する残業の基準や定義についてでした。どこまでが業務内で、どこからが時間外業務なのかなど、残業に対する線引きの曖昧さが各職場で大きく異なり討論となりました。中でも、印象的だったのは、上司が残業している為、部下である自分も残業をしなければならぬという責任感から残業を行ってしまったっている職場や、反対に、上司の目線から、部下が残業をしているの上司が先に帰っては、部下に示しつかないなどという、意見の不一致やコミュニケーション不足が招く問題でした。

私たちの清掃職場でも、普段の収集作業時から、お互いにコミュニケーションを取り合うことで、収集現場での危険な状況を未然に防ぐことにつながるとしています。また、残業こそ少ないものの、災害時など非常時における出勤や待機命令に対して、課題を整理する必要があると思います。他にも、職場での休暇の取得の申請のしやすさ、インフルエンザなどの感染症への休暇取得の違いについても話し合いました。こうした意見を聞くと、労働組合によっていかに自分たちの職場の権利と主張が確保されているかを強く実感しました。



調布支部〈大江 和幸〉

おおえ かずゆき

～青年部の必要性に気付いた～

2日間にわたる「学習と交流」を経て、組合の大切さやその上で今後職場を担う青年層の活動が非常に重要であることを肌で感じるようになりました。私が特に印象に残った事が二つあります。

一つ目は、「構成詩」です。ハラスメントの実態について、劇形式で非常にわかりやすかったです。組合に相談する事では一人では解決できない問題も、解決しようとする組合の大切さを学ぶ事ができました。自分が問題を抱えた際は、一人で抱え込まずに組合に相談していこうと感じました。

二つ目は、「分散会」です。私のグループでは、賃金の話から、仕事のやりがいについて等、色々な話を聞き、私自身も色々話すことができました。賃金については、職種によって手当が様々で、私の仕事である「清掃職員」の特殊勤務手当に関しては、グループのメンバーからそういった手当があることに非常に驚いていたのが印象的でした。

他にも、関西生コン事件についての講演等色々なプログラムを通して組合について理解を深める事が出来たと思います。これから先何十年と働く職場の環境をより良くしていく為にも、組合の活動についてさらに理解を深めていき、今回の団結集会で得た経験を自分の職場に活かしていきたいと強く思いました。



渋谷支部〈神崎 吉之〉

かんざき よしゆき

一人ひとりが考える組織に

分散会で一番印象に残ったことは、分散会メンバー全員が賃金に対し、何かしらの不満や不安があげられたことです。その中で、結婚している仲間の話では、「一カ月の賃金だけでは生活が厳しく、一時金を切り崩して生活費にあてており、夫婦共働きで働いていても車のローンや、結婚式のローンなどで余裕が全くない。現在は実家で暮らしているので金銭面的には助かっているが、自分の家を買おうとの決断まで踏み込めないでいる。何とか少し貯金ができた月があっても、周りの人には将来の為に貯金をしていると見える金額ではない」との話がありました。また、結婚していない仲間の共通認識では、「生活の中で一時金をあてがわなくても生活できていたが、将来の為に貯金がなかなかできない。趣味娯楽に使えるお金が自分の周りの友達より少なく、遊びに誘われても断ることの方が多し」との声がありました。

仕事の内容については「仕事が納期内に終わりそうにないとき、先輩達が手伝ってくれて、月の残業時間が繁忙期でもあまり残業がなかった」という良い報告もありましたが、そもそも人員がいなかったり、繁忙期には月に100時間近くの残業をしている仲間もいました。また、「上司も日々残業をしているため、残業の申請がしづらい。予算がない為に残業代を請求できない。自分だけ請求するのは申し訳ない」など、聞き手側の立場でも心が痛くなる内容でした。分散会はお互いに質疑応答が多く時間が過ぎるのがあっという間でした。職場の悩みを全国の仲間と共有でき、私自身今後の組合活動の中で、分散会で話し合った内容を職場の仲間に伝えなければならぬと思う、全国青年部団結集会で学んだことは職場に反映して一人ひとりが考えて行動提起しなければならぬと考えました。



大森支部〈杉本 大樹〉

すぎもと だいき

賃上げを勝ち取りたい

はじめて全国青年団結集会に参加しました。開会すると高知県実行委員の方たちによるシングアウトを始め、ハラスメント問題に関する構成詩を聴きました。

実際に行政職と技能職では、仕事内容も当然異なり、上司との関わり方にも違いがあります。私の場合も普段、可燃ごみの収集が主ですが出勤人数の都合により、ふれあい指導班にも行く時があります。そこでの業務は、すべてが初めての業務で直接指導班の方に作業の仕方を教わり、業務を行います。いくどきに私の担当になる方もその時によって変わるので、その都度やり方を担当者に合わせていかねければなりません。行政職は業務の種類が多いですが、やり方は決まっていると思います。かわりに技能職は業務の種類は少ないですが、やり方が複数あります。今回の演劇を観て確かに、不十分な説明で作業をさせ、膨大な仕事量などの大変さがありました。自身のコミュニケーション不足も原因の一つに思えました。相談するにしても選択肢が上司、組合など一つか二つしかありませんでした。職場によっては人数の都合で相談できないこともあると思います。広く相談相手を見つけ、よりおおくの意見や解決策を知る必要があると思いました。

それから、二日間に分けて分散会もありました。今回のスローガンでもある賃上げについて多くの議論があり、自分自身の給与形態には満足できずにいましたが、他の給与形態も似ていることが分かりました。全員が賃上げを希望していますが、他の自治体も増やせずにいるのが現状で、基本給でなく一時金や手当という形で回避されています。私以外にも、同じ不満をもっている方がたくさんおり、この先入庁してくる方たちのためにも今回のような活動を続け、全国で団結し、賃上げを勝ち取るためにもがんばりたいと思います。

高知に行ったらこれでしょう！
名物！カツオのたたき

カツオとは・・



スズキ目サバ科の一種で世界中の海に生息しています。全長は50〜60センチ程です。

体の色は背側が藍色で腹側は銀白でカツオの特徴である縦縞模様です。興奮すると横縞になります。

脳の働きを活発にするDHAや血液をサラサラにするEPA、肝機能を高めるタウリンが豊富です。初カツオにいたっては、ほぼ同じ成分でとてもヘルシーです。

みなさんもこれを食べて闘争にカツオ！

